

連載　（供覧）いはひまつりのみち

宗教は人を殺し、祭祀は人を生かす
世界平和のための祭祀を復興させる

第十三回　世界宗教の種類とカミの二義性

南出喜久治（令和7年3月1日記す）

ちちははと　とほつおやから　すみめおや　やほよろづへの　くにからのみち
(父母と遠つ祖先から皇御祖八百万神への国幹の道)

宗教の分類として、創始者の言動を中心とする創唱宗教と呼ばれる宗教（仏教、キリスト教、イスラム教など）の分類や、God が下された啓示に基づく啓示宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教など）といふ分類による世界宗教があります。

また、民族固有のものとして成立したユダヤ教、神道（神社神道）などの民族宗教の区別があります。

しかし、このやうな区別よりも、国民的ないし世界規模の倫理性を持つ倫理的宗教としての世界宗教であるキリスト教、イスラム教、仏教について比較考察することにします。

倫理的宗教といふのは、自然宗教と対比されるのですが、この自然宗教といふのは、原始的宗教の総称です。これ以外に、啓示宗教に対して人間の理性によって組み立てられた理神論をこれに含める見解もありますが、分類方法としては混乱してゐます。理性で編み出した理神論を「自然宗教」といふ分類にすること自体が誤りなのです。理性で編み出した宗教といふ意味では、世界宗教と理神論は同じなのです。

ともあれ、自然宗教といふのは、宗教ではない祭祀は含まれないことになるので、祭祀についての分類ではないことになります。これは宗教と祭祀といふ信仰区分ができるまいことによるもので、仮に、祭祀を宗教の分類に入れるとすれば、自然宗教に分類されることになります。

そして、その前提によつても、祭祀と古神道及び神道については、その他宗教とは決定的に異なる点があります。

それは、カミの概念の相違です。

古神道や祭祀で言ふ「神（かみ）」といふのは、God や仏のやうな絶対的存在の意味ではなく、川の上流と同じ意味の「上（かみ）」といふ相対的に祖先の上位を「神」と呼称するものです。相対的に上位といふのは、実のところ際限の無い連續的な無限の概念であ

り、その彼方に God に近い最上神を想念できるのです。決して、宗教のやうな、理性の産物である God や仏のやうな、いきなりの最上神ではないのです。

倫理的宗教の概念は、世界的規模での倫理性を持つものですから、世界宗教と一致してゐます。これらの宗教の特徴は、God といふ絶対神が存在しますが、後で述べますとほり、人の観念の産物である God によって人が作られたといふ究極の循環論法によって作られた理性の産物です。つまり、God は純然たる理性の働きによる空想の産物ですが、祭祀の祖先は実在するものであり、そこから派生する祖靈崇拜、靈魂不滅、輪廻転生などの観念は、祖先の経験による産物なのです。

宗教を生んだ空想といふ理性の働きは、その整合性を保たうとして、願望充足の目的を持ちます。そのために、その宗教体系は、合理的、倫理的なものとして完成したのです。

この空想、実在、経験の相違は、祭祀と宗教との決定的な相違となつてゐるのです。